

添付資料1

事業計画書

団体名 地域インターンシップ世田谷実行委員会

1 事業名称	地域インターンシップ世田谷「世田谷で街なか留学」	
2 協働事業の内容	<p>(1)事業の目的 ※地域課題や社会的課題を捉えた目的を記載してください。</p>	<p>学生が地域に関わる機会を増やし 地域で活躍できる場をコーディネートする 地域を担い支える人材が育つプラットフォームをつくる</p> <p>世田谷のまちにはたくさんの大学や専門学校などがあり、毎年、多くの学生が通っているが、学生の多くは「世田谷のまち」に関わりを持たないまま卒業を迎える。学生からは、まちに関わりたいが、入口がわかりづらいとの声が上がっている。一方、世田谷のまちには多くの地域団体などが活動しているが、そこからは、若者と関わる機会がない、若い担い手がいないと囁きが聞こえてくる。</p> <p>「地域インターンシップ世田谷」は、世田谷のまちに住み、通い、通り、使い、興味を持っている学生に、「世田谷のまち」をもっと身近に感じてもらう、ファンになってもらうことを目的にした事業である。 この事業を効果的に行うことにより、世田谷のまちを「地元」のように思い、世田谷のまちに関わる若者を増やし、世田谷のまちの将来の担い手が増えることを狙う。</p>
(2) 事業の内容	事業の対象者	<p>高校生・大学生の年代の若者世代（直接の対象者） 地域活動を多世代で行うことに課題を感じている市民活動実施者（間接的な対象者）</p>
	運営体制	<p>事業を実施する地域インターンシップ世田谷実行委員会は、インターン卒業生などを中心とした【学生・若者】、受入れプログラムを提供する【地域団体など】、学生へのサポートを行う【大学教員】などが中心となり、実行委員会形式で運営する。運営事務局は今年度より【世田谷区に在住の若者(20代・30代)】も参画する。</p>

		<p>内容</p>	<p>■事業の内容 ・大学生を中心とした若者世代に、世田谷のまちで活動する地域団体などの活動に単なるボランティアではなく、運営者としても参画してもらうためのコーディネートを行う。これらを通して、世田谷のまちへの継続的な関わりを構築する。</p> <p>■実施手法</p> <p>①受入れプログラムの収集とコーディネート 大学などを通して募集した応募学生の希望や興味を確認し、地域団体などから集めた「受入れプログラム」を提示しながら、応募学生・受入れ団体双方の希望に沿ったコーディネートを行い、応募学生をインターン生として受入れ団体に派遣する。 なお今年度より、地域活動を担う町内会・商店街を加え、受け入れの幅を広げる。 (団体：9団体、学生：20人程度を想定)</p> <p>②プログラム期間中のサポート プログラム期間中、【<u>インターン卒業生の支援者コミュニティ</u>】の若者とともに、インターン生・受入れ団体からの相談の対応、受入れ団体同士の情報交換の場づくり、インターン生によるプログラム活動のウェブ発信のサポートなどを行う。</p> <p>③受入れ団体オープンディ実施 インターン開始前に受入れ団体を見学できるオープンディを実施する。オープンディを実施することにより、インターン応募検討者が受け入れ団体の情報を具体的に得られるだけでなく、プログラム応募にハードルを感じている人々にも受入れ団体の活動を広く知ってもらう機会にもなる。</p> <p>④継続的な関係性の構築 上記、①～③などを通し、翌年以降、インターン卒業生の支援者コミュニティへの参画を促すコーディネートを行い、世田谷のまちへの継続的な関わりを構築する。</p>
		<p>地域の団体との連携</p>	<p>本事業は、区内地域で活動するNPOや市民活動団体のほか今年度より、町内会、商店街などの民間が組織する地域組織や団体とも連携を広げる。</p> <p><受入れ団体></p> <p>1) 一般社団法人おやまちプロジェクト 2) NPO法人子育て支援グループ amigo 3) 凸凹 Kids すぺいす (障害児放課後等デイサービス) 4) ハーモニー (就労継続支援施設) 5) 羽根木プレーパーク 6) 100人の本屋さん 7) 三軒茶屋町会 8) 福田コミュニティ農園 9) 下北沢盆踊り実行委員会 (3商店街で組織する実行委員会)</p> <p>また、運営については、学生の派遣コーディネートの知見をもつ、【<u>NPOインターンシップラボ</u>】、世田谷のまちの地域団体などをよく知る【<u>世田谷コミュニティ財団</u>】、【<u>世田谷区社会福祉協議会</u>】【<u>世田谷ボランティア協会</u>】などの協力を得ながら運営を進める。</p>
<p>(3) 事業の成果</p>		<p>期待できる具体的な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで地域に縁が薄かった学生が世田谷に愛着を持つようになる ・インターン生が地域活動などの担い手となる ・インターン卒業生が本事業の支援者となる ・より多くの関係機関が事業に協力する ・より多くの地域団体などが事業に協力する ・社会全体を意識した視点でまちをみる学生が増える ・区の他の事業へ関わる学生が増える ・インターン生が企画する団体紹介企画に公共の視点が入る

	<p>成果の測定方法</p>	<p>■アンケート・統計による測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで地域に縁が薄かった学生が世田谷に愛着を持つようになる：愛着度向上 ・インターン生が地域活動などの担い手となる：プログラム以降の活動参加率 ・インターン卒業生が本事業の支援者となる：プログラム以降の支援活動参加率 <p>■統計による測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの関係機関が事業に協力する：協力機関数 ・より多くの地域団体などが事業に協力する：協力地域団体数 <p>■アンケート・統計・複数評価による測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会全体を意識した視点でまちをみる学生が増える：公共への理解の有無 ・区の他の事業へ関わる学生が増える：活動参加率 ・インターン生が企画する団体紹介企画に公共の視点が入る：公共の視点の有無 <p>※複数評価は、区担当者にも協力を仰ぎ、それぞれの視点での複数人の評価をとりまとめる</p>
	<p>(4)令和6年度 事業完了予定日</p>	<p>2025年2月28日</p>

※提案団体記入

<p>3 協働の 必要性 及び 役割 分担</p>	<p>(1)協働する 必要性</p>	<p>■若者の地域での交流と活動参画を拡大する 本事業は、「世田谷区未来つながるプラン」の「分野別計画等における主な取組み」にある「若者の交流と活動の推進」とも合致する事業である。「世田谷区未来つながるプラン」にある「若者自らの主体的な活動を通じて、自立と成長を促し、若者たちが地域や社会とつながり、世代を超えた出会いや交流の機会を創出することにより、社会への参加・参画意識を高め、交流と活動を広げる機会を充実」部分を補完・拡大する事業であることから、実行委員会のみならず、区にとっても協働する意義が非常に大きい事業である。</p> <p>■公共的な視点をもつ若い担い手を増やす 本事業は、公共性の高い仕事に関心がある学生が参加することが多い。協働で事業を実施することにより、このような関心を持つインターン生に受入れ団体の視点だけでなく、公共的な社会全体を意識した視点でのまちも知ってもらう機会を提供することができるようになる。 公共的な視点をもつ若者が世田谷に増えることは、本事業の目的である将来の世田谷の「まちの担い手」を増やすことにもつながることから、世田谷区と協働で実施する意義は非常に高い。</p> <p>■関係者からの事業への信頼性が向上する 本事業は、社会に出る直前の学生を対象としていることもあり、公益性の高い安全な事業であることが重要であるが、受け手にとってはその判断が難しい。世田谷区は、既に、子ども・若者支援課を中心に若者向けの施策や様々なプロジェクトを展開しており、多数の若者の参画実績を持つ。 世田谷区と協働することで、本事業がこれまでの区の施策やプロジェクト同様に公益性の高い事業であることを示すことができ、円滑に事業を行うことができる可能性が高くなる。このような観点からも本事業における協働の必要性は非常に高い。</p>
	<p>(2)役割分担 (提案団体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の企画・運営全般 ・事業周知・広報 ・インターン生のコーディネート・サポート ・受入れ団体のコーディネート・サポート ・情報発信
<p>4 将来 性</p>	<p>(1)期待される 具体的な区 民・地域への 波及効果</p>	<p>今回、若者を地域活動団体等に派遣して参加してもらう「地域インターンシップ」を実施するため、地域活動団体等へ受け入れを依頼したが、承諾があった団体のほとんどは既に若者を受入れた経験がある団体であった。受入れ経験が無い団体は「若者と関わる機会が無い」「若い担い手がない」との課題認識はありつつも、受け入れの一步が踏み出せないようであった。 この状況について、若者のボランティア派遣経験がある中間支援団体などにヒアリングしてみたところ、多くの地域活動団体は同様の状況にあることがわかった。 地域の担い手不足は、町内会の高齢化などの「地縁組織の弱体化」や、子どもにとっての「空間」「時間」「仲間」の3つの間の減少などの影響で、現在の若年層が子どもの頃に地域活動に参加する機会が減っていることが要因にあげられることが多いが、一方で受入れ側の地域活動団体に「継続的に若年層に関わってもらうことができる体制」ができていないことにも要因があると考えられる。 現在、このような課題に行政や中間支援団体などの組織であっても有効な対策を講じることができていない状況にあるが、本プログラムの波及効果として、地域が抱える「地域の担い手不足」の課題を解消するため、世田谷のまちで活動する若者の受け入れを行っていない、または行っているが改善をしたいと希望する地域活動団体等に、「継続的に若年層に関わってもらうことができる体制」を構築してもらうことが、課題の解消の一助となる可能性が高いと考える。</p>

	<p>(2)将来の展開</p>	<p>■若者交流と活動の推進の拡大 昨年度の成果でもあるインターン生による支援者コミュニティを継続することにより事業の持続可能性を高め、事業を定着させる。更に事業を継続することで、インターン卒業生の先輩・後輩同士が教え合う・支え合うような自然発生的なコミュニティ形成も期待したい。</p> <p>■協力者や支援の拡大 協働を通して培った世田谷の学生や大学とのつながりや関係機関・団体とのつながりを大切にして継続することにより、毎年多数の学生が趣旨を理解したうえでのインターンシップへのエントリーを促進する。また、事業への運営・資金・場などの支援者を獲得し、事業の持続可能性を高めたい。</p>
<p>5 その他</p>	<p>* 提案する事業と関連する団体の特徴、専門性、実績、提案、事業実施に向けたアピールなど</p>	<p>地域活動やNPOへのインターンシッププログラムは全国各地で行われているが、行政と協働で事業を行うことは珍しく、本事業はインターンシッププログラムとしても先進事例となるプログラムである。</p> <p>一昨年度・昨年度の実施を通して、受入れ団体が若者と地域をつなぐプラットフォームとしての実行委員会への参加に関心を表明してくれているだけでなく、複数の大学とも関係が構築され始めている。</p> <p>将来的には、団体や大学なども巻き込んだ公共的なインフラとして機能させていくことを目指し、区民が資金を出し合って学生の成長を支えるプラットフォームとしたい。</p>

※昨年度に提案型協働事業を実施した事業のみご記入ください。

6 昨年度の提案型協働事業の効果など	(1)昨年度の協働事業の効果・実績	<p>本事業は、一昨年より実施している事業であるがこれまでの経験を踏まえ、コミュニケーションの方法や事務局体制の改善によりより深い協働での事業推進が行えた。特に企画段階より、学生の実情を勘案したアドバイスをさせていただくことにより、学生が参加しやすいイベント等を設定することが実現した。</p> <p>担当課にも、講義の講師、学生のメンタリング、トークセッションの登壇など様々な役割で関わっていただき同じ経験を重ねることにより、よりお互いを理解できたことから、事業がより推進しやすくなった。</p> <p>今後の展開を検討する際に必要な、調査等も企画段階から一緒に実施できたことをきっかけに、公共の福祉の中での本事業のあり方について、実行委員会の中で改めて整理することとなり、事業に広がりが出ている。</p>
	(2)昨年度の事業内容と比較して、新しい点や工夫した点など	<p>■より参加のハードルを下げるプログラム設計</p> <p>担当課の希望の一つである「若者への参加のハードルを下げる」という点について、昨年度は、インターン生へのミッションの一環として「団体見学会」を実施することで、ハードルを下げる取り組みとしたが、インターン生と団体とのコミュニケーションには寄与する一方で、希望である参加のハードルを下げることについては課題が残った。</p> <p>そこで、今年度は団体見学会をオープンディに変更し「実施前の見学」にした。インターンに参加する前の「お試し参加」である気軽さを演出することで、ハードルを下げるプログラムにしている。</p> <p>■区との連携強化</p> <p>一昨年度は既に企画が固まった段階で協働事業を開始したことから、企画段階からの参画をいただくことが難しい状況であった。この反省を踏まえ昨年度は密接な情報共有に基づいて常に協働での事業企画を実施することができ、学生の地域活動への参加実態や意向を確認するための学校等へのヒアリングを共同で実施するなど、調査活動も共同で行うことができた。</p> <p>今年度は、この調査活動で得た情報を共同で分析し、実装につなげるなどのより強固な連携を目指す。</p> <p>■事務局体制の強化</p> <p>昨年度は事務専任スタッフを1名置くことで、日常的な調整や連絡などを一元化するなどして事務局機能の強化を図ることができた。一方、若者の事務局が担うような運営への参画が課題となった。そこで、今年度は世田谷区で生まれ、育った若者世代（学生と30代前半）を2名加えて体制を強化している。</p>
	(3)協働事業を継続する理由	<p>昨年度は、本格的に地域へのインターンシッププログラムを実装することができた。今年度も協働事業を継続したい理由は2点である。</p> <p>1つは、事業を実施する中で、インターンシップに応募する学生が世田谷区の行政等に対する興味・関心が高いことが分かっている。そこで、まだ実現できていない若者が区政を身近に感じられるような企画を、インターン卒業生のコミュニティなどとともに企画実施していきたいと考えている。</p> <p>もう1つ、将来的にこの事業は、広く関係機関の協力や区民の寄付を集め、自立的に運営できるプラットフォームを目指していきたい。そのためには、さらに継続的に関係性の構築やコミュニティの醸成が必要であるが、その期間に区がかかわる信頼性が重要となってくる。</p>

※区担当課記入欄

区担当課名	子ども・若者支援課
-------	-----------

[令和6年度提案型協働事業 様式]

<p>3 協働の 必要性 及び 役割 分担</p>	<p>(1)協働する必要性</p>	<p>区が協働していることで、連絡先や学生への安心感につなげられ、会議などでは、学生の質問に対し区職員の経験値を活かしたアドバイスをすることができる。また、インターンシップ期間終了後も、引き続きNPO団体や地域活動へ参加する学生が見られ、若者の地域参加のきっかけとなることができる。 インターンに参加した学生からは、地域のこと、地域活動をする人のことを知ることが出来たとの声があった。活動に参加した若者の声を聞く機会があれば、今事業について興味関心を持つ若者も現れることが期待できる。本事業のような気軽に地域活動へ参加できる仕組みづくりと若者同士の情報交換が出来る仕組みづくりを併せて協働で検討していくことが必要であると考え。</p>
	<p>(2)役割分担 (区担当課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の企画・運営のサポートとアドバイス ・事業周知・広報のサポートとアドバイス ・インターン生への世田谷についての講師・公共的視点からのアドバイス ・世田谷区における若者の状況や施策についての情報提供 ・行政の内部調整
<p>4 将来 性</p>	<p>(2)将来の展開</p>	<p>地域活動に興味を持つが参加の方法を知らない学生が、区の媒体を活用して周知・PRすることにより、活動の場を知ることができる機会が増える。また、参加する学生や若者が増えることで、地域が抱える課題を学生の目線で発見し、課題解決に向けて区とともに取り組むことが可能となる。学生や若者が愛着を持って地域活動に加わることで、地域の活性化につながり、イベントなどに参加した区民の満足度向上が期待できる。</p>

[令和6年度提案型協働事業 様式]

事業収支予算書

【収入】

費目・内容	金額 (円)	積算内訳
補助金	500,000	
参加費等	60,000	参加費3,000円×20名
寄付金	60,000	
合計	620,000	

【支出】

費目・内容	金額 (円)		積算内訳	
	事業予算額	うち補助金申請額		
人件費	コーディネーター費	250,000	250,000	10,000円/月×5名×5ヶ月 定例会議参加、各種会合の企画・実施、WEB・SNS運営、各種告知物作成、関係先連絡、事務作業等
	[小計]	250,000	250,000	
報償費	受入団体謝礼	90,000	90,000	10,000円×9団体 インターン受入れ・イベント参加・ヒアリング応諾等の実費とし
	[小計]	90,000	90,000	
消耗品・備品費	飲食費	50,000		打合せ、情報交換会軽食代 事務用品
	消耗品費	10,000		
	[小計]	60,000	0	
複写・印刷費	印刷費	60,000	40,000	チラシ印刷費 資料コピー費
	コピー費	50,000	30,000	
	[小計]	110,000	70,000	
郵送・広告・保険料	通信費	20,000	20,000	サーバー使用料、郵送費 ボランティアサイト掲出 ボランティア保険・行事保険
	広告宣伝費	10,000	10,000	
	保険料	5,000	5,000	
	[小計]	35,000	35,000	
使用料・賃借料	会場使用料	55,000	55,000	実行委員会打合せ会場使用料 5,500円/回×10回
	[小計]	55,000	55,000	
交通費	交通費	20,000	0	コーディネーター交通費
	[小計]	20,000	0	
その他				
	[小計]	0	0	
合計	620,000	500,000		

☆この事業収支予算書は、今回提案する事業に要する予算を記入するものです。団体の年間予算を書くものではありません。
 ☆日常の運営経費（団体等の日常運営の人件費、事務所賃借料、光熱水費、日常運営に要する消耗品・備品費等）は対象外で

添付資料3

事業実施スケジュール

団体名	地域インターンシップ世田谷実行委員会
-----	--------------------

※適宜、罫線を入れるなどして見やすいように作成してください。

時期	内容
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集期間 ・ウェブサイトや SNS などを通じて、また大学教員を通して、インターンに応募する学生を募集する ・学生向けの説明会を開催する（オンライン：5/31）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・応募学生からのエントリーシートの提出を受けて、正式に団体とマッチングする ・学生（インターン生）と団体の顔合わせ会を開催する（6/23） ・学生にインターン中の目標設定を提出してもらう
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・主なインターン活動期間 ・学生の情報交換・交流会の開催（8/4、8/31の2回） ・受入れ団体同士の情報交換・交流会の開催（8/4、8/31の2回）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・学生から活動報告レポート提出してもらう ・活動報告会を開催し、修了証を授与する（10/20）
11月～1月	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きインターンを続ける学生のフォローアップや受入れ団体のサポートを行う ※団体のイベント等の情報提供を行う ・次年度に向けた振り返りや企画を行う
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・提案型協働事業の終了・報告書を提出する

団体の概要

団体名	地域インターンシップ世田谷実行委員会				
所在地	東京都世田谷区		電話番号		
			FAX		
代表者氏名	寺内 義典		役職	代表	
事業責任者 ※住所、電話番号・FAX、Eメールは公開しません。	氏名	大島 龍亮		役職	事務局
	住所				
	電話番号				
	FAX				
	Eメール				
設立年月 (活動開始年月)	令和3年4月 (特定非営利活動法人設立： 年 月)				
役員等の構成 及び社員数 (会員数)	10人				
主な活動分野	(1) 世田谷区内の地域で活動している団体へのインターンシップに関する活動 (2) 世田谷区内の地域を担い支える人材が育つプラットフォームに関する活動				
主な活動実績 *行政との協働の実績を含む。	■2021年度 地域インターンシップ in 世田谷」設立。「公益信託オラクル有志の会ボランティア基金」の助成を受け、世田谷区内で学生などの若者が、地域の団体や活動にかかわるきっかけとなる「NPO インターンシッププログラム」に向けてトライアルでのインターンシップを実施した。 ■2022年度 「世田谷区提案型協働事業」の補助を受けた NPO 法人 CFF ジャパンと密接な協力のもとで、世田谷区と協働で「地域インターンシップ世田谷」を本格実施。応募のあった学生 16 人を世田谷区内の 10 の活動団体にマッチングした。 ■2023年度 実行委員会として「世田谷区提案型協働事業」の補助を受け、世田谷区と協働で「地域インターンシップ世田谷」を実施。応募のあった学生 26 人を世田谷区内の 10 の活動団体にマッチングした。				
団体のホームページ	https://internship-setagaya.net				

選定委員会からの意見

事業名：地域インターンシップ世田谷「世田谷で街なか留学」

- 実行委員会と区が関与することにより、学生が参加する際のハードルを下げ、団体にアプローチしやすい仕組みを構築していることを評価する。
- 受入団体、大学生のいずれについてもメリットがある取組みであり、地域づくりへの波及効果も認められる。今後の拡大の可能性に期待する。
- 若者所管以外にも幅広い区所管や事業との連携の可能性を探り、事業継続の手法を工夫されることを期待する。